

日本内分泌学会 男女共同参画推進委員会 (JES We Can) 北陸支部のご紹介

北陸支部では、秋に年1回、日本内分泌学会北陸支部学術集会を開催しています。

長らく JES 北陸支部をお一人で活躍されてきた臼田里香先生の発案により、2014 年から北陸支部学術集会にて JES We Can 企画として「一般臨床医のための内分泌症例セミナー」を開催しています。これは、臨床に携わる女性医師が、所属機関において過去 1 年間に発表した症例報告のうちの 1 題をもって応募、オープン参加の聴衆を審査員とした事前審査会にて最優秀賞を決定、受賞者には支部学術集会で表彰・副賞旅行券を贈呈するとともに、臨床的な啓発を意識した講演を行っていただくものです。これにより、女性会員の積極的学会活動参加を後押しするとともに、審査会での議論を通じて男女を問わず若い会員に内分泌臨床学が継承されることを目的としています。さらに、受賞講演を医師会生涯教育講習会に登録しており、内分泌学を専門としない第一線の医師への教育・啓発の機会、内分泌疾患の拾い上げと専門医への紹介が促進することを目的としています。

女性医師企画事前審査会企画は本年で 7 回目の開催です。内分泌学会北陸支部当番会長のもと、学会前の夏に行っています。学会評議員、内分泌代謝科専門医のみならず、若手医師、研修医など 40 名ほどが参加しています。例年、座長は金沢医科大学糖尿病内分泌内科学中川淳教授にお願いしています。中川教授の温かいお人柄もあって、この事前審査会では活発な質疑応答やより良い学会発表するための多くのアドバイスがあります。1 演題につき 20-30 分(症例によっては 50 分になったことも)と通常の学会発表よりもゆっくりした時間で討議を行うこともあり、発表者のみならず参加者も非常に有意義な時間を過ごすことができます。これまでの 7 回の最優秀者の内訳は、内分泌専門医 3 名、後期研修医 2 名、初期研修医 2 名とベテランから研修医まで様々です。7 年間という長期にわたり悪性腫瘍細胞腫の患者に寄り添い診療された症例、免疫チェックポイント阻害薬により誘発された破壊性甲状腺炎の 3 症例、MODY10 症例など症例は多岐に及んでいます。症例を深く知るだけでなく、ベテランの発表からは患者との深い信頼関係に裏打ちされた診療状況を知り、研修医の発表からは指導医との綿密・周到な用意を垣間見ることができます。当時初期研修医であった受賞者が、事前審査会直後に内分泌代謝学専攻を表明してくれるという喜ばしい経験もありました。女性医師の発表ということもあり、例年、妊娠中やお子さんを託児所に預けて参加される先生方が多い現状があります。この北陸支部女性医師企画が、内分泌医のモチベーションを維持・向上しながらキャリア形成を図り、女性医師としての社会的役割を果たす一因になることを願っています。

今後も北陸支部の内分泌学会の会員増に努めるとともに、脳神経外科、小児科、核医学診療科、内分泌外科、泌尿器科、産婦人科など、内科以外の領域の医師にも参加してもらえるような楽しい学会にしていきたいと思います。

文責 竹下有美枝

竹下有美枝(支部代表)、中川淳、藤井寿美枝、朴木久恵、臼田里香(2020 年度退任)